

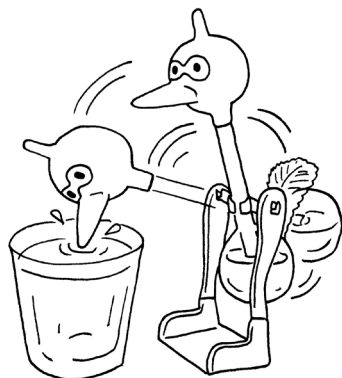
鎌倉おもちゃ屋物語

くろすかすきよ

その9

面白駄玩具の紹介と
新米おもちゃ屋の
どたばたエッセイ！

「平和鳥」って知っていますか？
昭和に流行^{はや}ってあちこちの店のウインドーに飾られていた科学おもちゃです。鳥が揺れると中のエーテルが少しずつ首のガラス管を上って頭の方が重くなるのでコップの水にくちばしをつける、その水が蒸発することで頭が冷えて頭の中の空気が縮むことでエーテルがまた上がっていく、くちばしがぬれている限り水飲みを続けるという仕組み、大傑作おもちゃです。でもこれがもう絶滅種！ おもちゃ問屋の方の話だと鳥の体のガラス管を作る工場がその型を廃棄してしまったので二度と製造は無理とのこと。



そのお店に残っていた5個を買い占めて1個を見本としてお店に置きました。くちばしが水につくときコップと首のガラスの当たる音が「チン！」お客の来ない静かな店内に響きます。一人の店番のときもなんか寂しくない。バットを飼った気分です。朝イチで店に入ったときも動いていたりと「こいつ夜通し頑張っていたんだなあ」といとおしくなる。

懐かしがるお客さんはやはりいて、残りの4個は次々売れてしまいました。もう手に入らないのは寂しい……ダメもとで探したらありました！さすがアマゾン。中国製で日本製より一回り小さくて、おしゃれに帽子などがぶついています。日本のものをなんでも復刻して安く売る中国、ちょっとずるい気はするけどこんな絶滅種の命をつないでくれるのは感謝、中国さんありがとう！

見本用に一つ開けて試運転……ところが！
「あれっ……？？」くちばしが水につかない。
くちばしが水に浸かる前にお腹のエーテルの水面からガラス管の先が出て空気が入り上がっていたエーテルが下に降りてきて頭が戻ってしまうのです。



黒須和清 1955年東京生まれ。横浜在住。
洗足こども短期大学教授として手作りおもちゃや人形劇を教えるかたわら、ペーパークラフトや執筆活動、研修会講師の仕事などで忙しい。

くちばしが水につかなければ水飲み運動は止まってしまいます。「えーっ！！」
仕入れた5個全部試してみましたが同じでした。「なんだこりゃあ！」

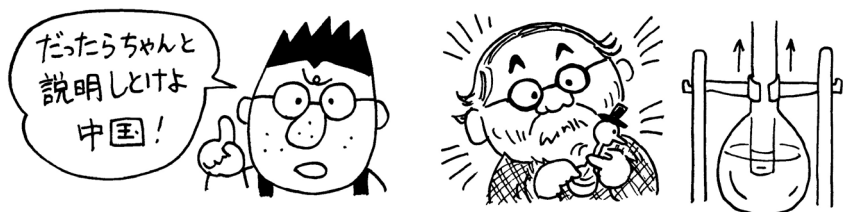
「きっとエーテルの量が少ないんだな。中国め、適当な仕事しやがって。見た
目だけなんとなくまねて肝心なところを節約して。許せん！」

あんなに感謝していた中国を猛批判。以前「バク転力エル」のときにも話しま
したけど、駄玩具には不良品が混ざっているのはよくあることなのですよ。こ
するとスパンコールのビーズが裏返って色が変わるブレスレットとか、落ちる
砂の色が変わる砂時計とか。



安ければそんなものかとあきらめもつきますが、ちょっと高価な科学おもちゃ
が全滅なんてがっかりも甚だしい。やって来たヒゲだるまオーナーに散々グチ
りました。オーナーも困ったものだねと渋い顔、でもしばらくすると

「治りましたよ！」えっ？ 奇跡！ なんとくちばしが水に浸かるようになりました。オーナーは首のガラス管と足の金具をちょっとずらして頭の方を少し
重くしたらしい。そんなことだったのかい！ さすがオーナー、快挙！ 病院
ならサジを投げた患者を生き返らせた名医です！



だって解説書も何にも入ってないんですから。
その晩、丁寧な解説書を作って、合格した5羽
の平和鳥を梱包してそこに添えました。買った
お客さんをがっかりさせないために必ず検品して
商品に手を尽くす、それがうちの店なんです。
だから仕入値980円の平和鳥が
2500円なんですよ。高いですか？！

